

## 古物語

## 三つの問

うはう生

むかし英吉利にジョンと呼ばれし王様おはしき、  
いと悪しき君にて民のなげき人の惱は露思ひやる  
ことなく、ひたすら我儘なる振舞のみぞ遊ばしけ  
る、

都よりほど遠からぬカンタベリーの町に、アペー  
といふ大寺ありて住持は富裕なる老人にて、日毎  
の宴會に百人ほどの貴顯を招待し、五十人の勇士  
の美しくよろひたるを侍はしてすみなす僧正あり  
と聞きしジョン王、大に立腹せられ、如何にもし  
て止めさせばやと思込ませらる、  
ある日僧正を召して云ひけるは、

「朕さく汝はわれにもまなりて一層美しき宮殿に

すみ居らるゝとか、我國土廣しと雖、われにまし  
たる生活をなすべきもの一人もあるべきにあらざ  
るに、また何人も願はざるべきなるに」と

「恐れながら我君」と僧正いと恭しく

「愚僧めは、愚僧の所有にかゝるもの、外は費し  
申さず、何卒愚僧が友人や臣下を樂ましむるため  
に宴會を催はすことなどを悪くかとりなき様願ひ  
奉る」

王おごそかに

「悪くとるなとか、これが悪くとられいでか、こ  
の國にあるもの、普天の下卒士の濱、余がものな  
らざるはなし、然るに何ぞや、汝は朕よりも華美  
をつくしてくらすを朕をはづかしむるものならず  
や、人或は思はん、汝朕に代つて國王たらんとす  
と」

「まゝ、さやうにおふせあるな、愚僧は〜」

「何んと申譯あるまい、汝の罪はいと明かなり、

然らば汝若し朕が問ふ三の間に答へざらんか、汝の白髪頭引ぬいてくれん、而して汝の實はみな余のものとなすべきぞ」

「しからば御答申すべきか」

「然り、朕が金冠を頂きてかくある間は汝は一日中に我間に答へざるべからず、第一に朕はいつまで活きて居るべきぞ、第二に朕は全世界を一週するに幾日を要すべきかを答へよ、次に汝は答へよ今朕が何を思ひつゝあるかを」

「オー我君」それはいかなこと、とても愚僧には只今と申して御答は仕られず、しかし愚僧に二週間の猶豫をたまはらば、身にかけて御答仕るべうつとむべし」

「よし二週間猶豫とらせん、さわれその時、汝答ふる事能はざるに於ては、汝の首はなきものぞ」

僧正は恐ろしさに心も身に添はず、しほ〜として退出し、まづ オクスホルドに馬を進めぬ、若

しや彼處の大學にも行かば、物議りの博士を訪ふて、よき知恵もや得られんかとの望も、来て見れば

情なや、空頼、博士等は頭うちふりて曰く、

「吾等は本をこそ學びぬれ、國王ジョンにつきて書かれたるもの無きを如何にせん」

止むを得ず、進まぬ駒に鞭加へつゝ、他の大學なるケンブリヂに行さしが、そこにも彼を助くべき

學者としては無かりき、僧正今は絶望して、あはれ神にも見はなされしかと悲しさをやるせなく、最早

一週間もすぎぬれば我此世にあらん程も短かければ、友人武士にも暇乞せばやと、家路にこそはつ

かれけり、

小道とぼくたとり行くときいつも彼れがめを

かけ居たる牧者に遇ひぬ、彼は遙かなたより聲を

かけ、

「檀那さま、やうこそは飯りたれ、國王に遇はれ

て如何なる事には相成しぞ」

「悲しい事になりしよな」

といらへて事の始末を物語れば、牧者は笑みて

「氣をお引立てなされ、檀那様、愚者も賢者を教

ゆる事ありとかや、大丈夫に僕御引受申さん」

「助けてくれると、如何して」

「御心配は御無用、あなたも御承知の如く拙者は

あなたに能う似て居ると、人のうわさ、また拙者

も見誤れしためしあれば、あなたの衣服、馬、供

を申受け、いそぎ都にのぼり、ジョン王に見ゆ、

兎も角もせん、事成らざるに於ては、身代りと相成て果つるまでに候」

「忠義なるかなわが牧者よ、我汝の忠義にめで、こゝは汝にまかすべし、なれども、都合悪しく相成たるときは我に知らせよ、汝死するに及ばず、我行きて死すべきぞ

やがて仕度に取りかゝり、破れたる牧者の衣服の上へ僧正の服をつけ、帽を頂き、黄金の杖を取れば、さながらの僧正にて、誰とて牧者と知るべくもあらざりき、急ぎ馬に乗り供を引具し、都の方へと走られたり、

國王とても代人とは知らねば、迎入れて

「よくぞ來りし、けなげなり僧正、されど若し答へられねば汝の首はなさぞ」とかどしたり、

「陛下愚僧は答ふる覺悟にて來りぬ」と牧者言上

三十七

す

「さもこそく、まづ第一の間に答へよ、朕は何時までか活るか」と嘲笑ひて申さる、

「されば、陛下はかかくれに相成るまでは大丈夫それよりは一日たりとも御ながらへ申すまじ、して陛下は最後の息を引取候節御かくれ申すべし、それよりは一秒時たりとも」

王笑はせたまひ

「面白き奴かな、よし朕汝の言を當れりとし第一を許さん、して第二の間は如何に、朕此世界を一週するに幾日か要すべき」

「陛下は太陽と共に出させたまひ、太陽と共に走り、翌朝まで續けたまは、二十四時間にて世界を一週したまふべし」

王は再び笑はせたまひ、

「そう、されど朕はさほど早く走り得べしとも思はず、汝は可笑しき者たるのみならず賢き奴なり第二はよし、扱て第三に朕は何をか思ふぞ」

「いと易き間にこそ、陛下は今某をカンタベリーの僧正と思ひ居らるゝならめ、されど實は某、彼の僧正に仕ふる牧者にて僧正の許しを乞はんためかくはまかり出たるものに候」

とて、彼の僧服をぬげば、即ちもとの牧者なりけり。

王からくとうち笑はせたまひ

「扱て面白き奴かな、朕は今より汝をカンタベリーの僧正となしつかはさん、汝の主人老僧正の代りに」

「陛下そはしかるべからず、某は読み書く事も知らねば」

「よし然らば他のものを取らせんず、はて如何にすべき、よし〜汝の世にあらん間は一週間に銀四枚づゝを贈らん、飯り老僧正に告げよ、ジョン王の許を得たりと」



説  
林



歐米にて觀察したる幼稚園

小泉又一

幼稚園に關しては、我國では、別に經驗なく、  
 唯人から、常識的に承はり、又自分も、常識に訴  
 へて批評した事もありますが別にフレール氏  
 の主義をしらべた事はありませんから、幼稚園の  
 事について、かれこれと、批評する事は出来ませ  
 ん、故に、本日御専門の方々にむかつて、冗話を  
 するのは、おこがましいことと思ひますが、唯歐